## 開催にあたって

今回のコーナー展示では、平成27年度に文書の整理が完了し、目録が刊行されたのを機に、飯塚家文書展を開催することとなりました。

飯塚家は幡羅郡江原村（現深谷市）に居を構えた旧家で、近世後期の武蔵国を代表する藍玉商として知られていました。

飯塚家の当主は、明治から大正期にかけて江原村副戸長、明戸村会議員・大里郡会議員・埼玉県会議員をつとめ、政治とも深い関わりを持ちました。飯塚家文書は9,925点にのぼる文書群で、政治、農業、商業、金融など多数の文書が含まれています。

今回の展示では、飯塚家・藍玉・養蚕・深谷関係の近代の文書を中心に、飯塚家の歴代当主と深谷の歩みを紹介します。

なお、展示を開催するにあたり、飯塚家より新たに文書をお預かりしました。その文書も一部展示いたします。

末尾となりましたが、現当主の飯塚正章氏をはじめ、関係各位に対し、厚くお礼申しあげます。

平成２８年６月

埼玉県立文書館

## Ⅰ　飯塚家の歴代当主

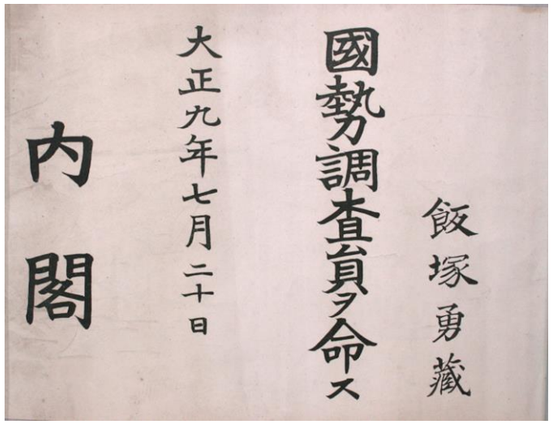
飯塚家文書から確実に分かる飯塚家の当主は、天保年間（1830～1844）の飯塚勇八からです。勇八は、明治10（1877）年に江原村の副戸長に任命されました。

勇八の長男岱蔵は、明治から大正にかけて明戸村会議員、埼玉県会議員、大里郡会議員などを歴任しました。岱蔵は、明治27（1894）年8月の水害の際には、明戸村の罹災者を救助するため、金10円を寄付し、埼玉県知事千家尊福より表彰されました。

岱蔵の長男勇蔵は、大正9（1920）年7月に内閣から第1回国勢調査員に任命されました。また、勇蔵は所有している畑の土を、レンガ製造用の土として日本煉瓦製造株式会社と売買契約を結ぶなど、地元企業へ協力をしました。

飯塚家は、明治期までは藍玉生産を行っていましたが、明治末からは養蚕をはじめ、昭和30年代あたりまで行っていました。その一方で、政治とも深い関わりをもちました。

**飯塚岱蔵肖像写真**　近代



國勢調査員ヲ命ス

飯塚勇蔵

大正九年七月二十日

内閣

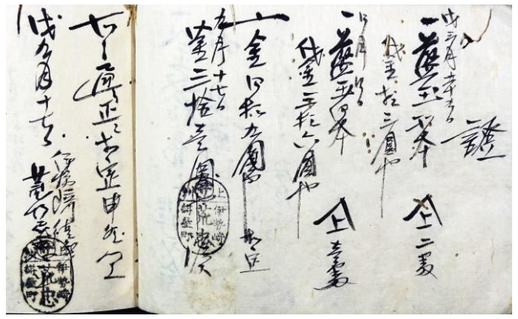
**第1回国勢調査員委嘱状**　大正9（1920）年

## Ⅱ　飯塚家と藍玉・養蚕

飯塚家は、文久2（1862）年に作成された藍玉生産農家の番付「武州自慢鑑藍玉力競」に、前頭として「飯塚雄八」の名前が載るなど、武蔵国を代表する藍玉商でした。藍玉の通帳が明治10年代から明治40年代まで残されており、藍玉の取引先として、武州忍・熊谷・妻沼・深谷宿をはじめ、群馬県（旧上野国）の佐波郡・那波郡・南勢多郡、栃木県（旧下野国）の梁田郡・足利郡の地名が見られます。

養蚕については、飯塚岱蔵が西武蚕業改良組合から大正8年度春期の産繭取引成績が優良であったため、一等賞を取っています。その他にも、蚕の日記帳、桑の売渡帳、手伝人控帳などの帳簿が多数残されています。

**旧飯塚邸母屋の鬼瓦**
（埼玉県立歴史と民俗の博物館収蔵）



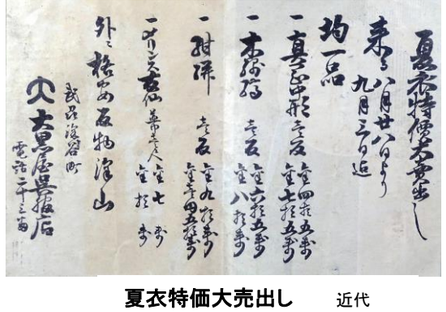
**判取帳**　明治6（1873）年

## Ⅲ　飯塚家文書からみる深谷

飯塚家文書の中には、近代の深谷が分かるものが多く残されています。明治～大正時代頃には、商店の活発な広報活動により、女性や七福神などを描いた引札（チラシ・広告）が広範囲に配られ、多くの人の目に留まりました。どの商店も趣向を凝らした引札を発行しています。引札から、深谷には菓子屋、下駄屋、酒類、雑穀、荒物商、呉服屋など数多くの商店があったことが分かります。また、深谷駅の時刻表や深谷郵便局など、日常生活と密接に関係している史料も残されています。

**引札　松月堂本店**　近代

**引札　関口長吉**　近代



**夏衣特価大売出し**　近代